

令和5年度 第1回小平市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和5年5月16日（火）午前10時から11時12分

2 場 所

小平市役所 5階 505会議室

3 出席者

(構成員) 小平市長	小林 洋子
教育委員会	
教育長	青木 由美子
教育長職務代理者	三町 章
委 員	丸山 憲子
委 員	青木 雅代
委 員	望月 克浩

(構成員以外の出席者)

有川企画政策部長、白倉教育部長、岡崎教育指導担当部長、安部地域学習担当部長、
奥村政策課長、竹中教育総務課長、事務局職員2名

(傍聴者) 3名

4 会議内容

午前10時 開会

(開会宣言)

○小林市長

おはようございます。市長の小林でございます。

定刻になりましたので、ただ今より、令和5年度第1回小平市総合教育会議を開催いたします。
進行につきましては、会議の主催者である私が務めさせていただきます。

教育長、及び教育委員の皆様には、日頃より小平市の教育行政の推進に当たりまして、ご尽力
をいただき、改めて感謝を申し上げます。

さて、この度、4月1日付けで、新たに青木由美子さんを教育長に任命いたしました。今回が
初めての総合教育会議となりますので、よろしく願いいたします。

それでは、青木由美子教育長に一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたし
ます。

○青木教育長

おはようございます。本年度第1回の小平市総合教育会議に際し、改めてご挨拶申し上げます。

4月1日付で小平市教育委員会の教育長を拝命し、1か月半余りとなりました。この間、市内
の小中学校や関係機関をはじめ、様々な施設を訪問させていただきました。多くの職員や市民に
接して、改めて小平市行政職員や教職員、及び地域の皆様が小平市の充実・発展を目指して熱心
に取り組んでおられる様子を感じることができました。私は小平市の児童・生徒や市民が安心・

安全で豊かな人生を歩んでいけるよう、教育行政のリーダーとして誠心誠意尽くしてまいりたいと存じます。元気に頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は市長におかれましては、総合教育会議を開催していただき誠にありがとうございます。この総合教育会議を通して市長と教育委員会が協議・意見交換を行うことで、さらなる理解を深め合い、小平市の教育と文化に関する事業が積極的に推進できることを願っております。何卒よろしくお願いいたします。

○小林市長

さて、昨年度7月の第1回の総合教育会議におきまして、「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性について」をテーマに協議・意見交換を行いました。

教育委員の皆様より、様々な観点からのご意見をお伺いし、私が思い描く「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性」と、教育委員の皆様が思い描く「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性」が、おおよそ一致していることが確認できました。次代の教育を実現するための基礎となります、第二次小平市教育振興基本計画もその方向性に基つき策定されたものと認識しています。

(協議事項)

○小林市長

本日の令和5年度第1回の協議事項は、昨年度12月の第2回の会議においてお示しいたしましたとおり、「小平市の教育に関する大綱(案)について」です。

「教育に関する大綱」とは、地域の実情に応じた、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策であり、平成27年度の総合教育会議での協議・調整により、平成24年度に策定された、小平市教育振興基本計画の目指す人間像・基本理念・教育の目標を、小平市の教育に関する大綱として定めています。

今般、小平市教育振興基本計画の計画期間が終了し、新たに第二次小平市教育振興基本計画が策定されたことを踏まえ、教育に関する大綱を見直し、今回協議を行うことといたしました。

教育委員の皆様におかれましては、新たに策定された、第二次小平市教育振興基本計画の内容についてはよくご承知のこととは思いますが、教育に関する大綱(案)の協議に先立ちまして、改めてその概要について、事務局から説明をお願いいたします。

○白倉部長

令和5年2月に策定いたしました、第二次小平市教育振興基本計画についてご説明いたします。お手元の計画概要版をご覧ください。

本計画は教育基本法の規定により策定するものであり、小平市教育委員会が今後10年間で進める施策の基本的方向や、目標を示す計画となります。市においては、小平市第四次長期総合計画における基本目標Ⅰ「ひとづくり」、人が育ち、学び、新たな価値を創造するまちを実現するための、教育分野における個別計画と位置付けられているものでもあります。教育は人を育てることです。本計画において、小平市の教育が目指す人間像を定めていますが、前計画から引き続き、「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」としました。これは、「自立」「共生」「貢献」を生きる力と捉えた普遍的なものであり、また、小平市第四次長期総合計画において市が目指すまちの将来像である、「つながり、共に創るまち こだいら」を実現する人でもあります。この目指す人間像の実現に向けて、学校教育及び社会教育の充実を図ってまいります。

また、この目指す人間像の実現に向け、今後10年で取り組む小平市の教育の基本理念を、「学び・体験を通じて お互いに認め合い 励まし合い 共に生きるまち小平」とし、この基本理念に基づき3つの教育目標を掲げております。「1 自分を認め 他者を認め 一人ひとりの子どもの良さや可能性を最大限に引き出します」「2 学校・家庭・地域がつながり 持続可能な教育環境をつくります」「3 一生涯にわたって学び受け継がれる小平の教育の好循環をつくります」。これはそれぞれ目指す人間像の「自立」「共生」「貢献」につながります。

なお、この3つの教育の目標の達成に向けた具体的な取組として、12の基本的施策をまとめ、それぞれに主な取組を定めています。教育委員会として、本計画に基づき小平市の教育の振興を図っていくためには、学校、家庭、地域、教育委員会が一体となって取り組むとともに、関係機関、各種団体、ボランティア、NPOなど各分野における多様な主体との協働により、地域全体で教育に取り組む環境づくりを進めることが重要と考えています。今後も地域全体で小平市の教育の振興に向け、取り組んでまいります。

○小林市長

それでは、これからの協議に先立ちまして、新たな教育に関する大綱（案）を、皆様にお示ししたいと思います。配付をお願いします。

（事務局より、教育に関する大綱（案）を配付）

○小林市長

大綱（案）を皆様にお示しさせていただきましたが、私の教育に対する思いを少しお話しさせていただければと思います。

小平市第四次長期総合計画で定めている、小平市の目指すべき将来像は、「つながり、共に創るまち こだいら」です。これを実現していくためには、今回の大綱（案）にもお示しました、目指す人間像である「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」を、小平でどう育てていくのか、というところに通じていると思っています。

私はまず、子どもたちに様々な体験をしてほしいと思っています。そしてその体験を通して、色々なことを学んでいってほしいと思っています。技術の進歩により様々な情報はネットで得られる時代になりました。

しかし、体験は何にも代えがたく、より多くの体験をすることで自分自身の引き出しを増やしていけるものと考えています。教育というのは一人ひとりの持つ引き出しを増やしてあげることだと思っています。学校であれば特別活動や体験活動を通して得られる経験や、また、マイノリティや多様性の学習などを通して引き出しを増やしていってほしいと思っています。これからはアフターコロナとなりますので、これまでは比較的慎重にならざるを得なかった行事についても従来通り、もしくはそれ以上のパワーで実施していき、子どもたちの経験というのは増えていくものと考えています。

引き出しを増やしていくのは子どもだけということではありません。生涯学習を通して、大人もまだまだ引き出しを増やしていくことができると考えています。そうしたことを通して他者を思いやる気持ちが育っていくものと思っています。

例えば箱庭のようなところで、同じ状況の人たちだけで暮らしていたら、外にいる人たちへの思いや、思いやりの気持ちが、なかなか育っていかないと思います。年齢や異文化など、様々な交流の中で、人と人との接し方を学び、その過程から他者を思いやる心が育っていくと思います。

そういう思いやる心を育てていくためにも、引き出しを増やす作業というのは必要であると思っています。

これからは学校だけではなく、地域の力も借りて一緒に子どもを育てていく、そして一緒に大人も育てていく、というところを形としてつくっていくことだと思っています。

今後、公共施設マネジメントを進め、学校に地区交流センターを併設し、学校が学校だけで完結する時代ではなくなっただけでありません。地域活性化を図っていく上でも、この地区交流センターをどう使ってこの後の小平市をつくっていくのかというところもキーポイントになると思っています。地域活性化を図っていくためには、市民が元気でなくてはなりません。その市民をどう元気にしていくのかは、冒頭に申し上げた「つながり、共に創るまち こだいら」ということでつながっていくことだと思っています。学びを通してお互いの引き出しを増やし、共通点を見つけていく、または共通理解を増やしていくことが、地域活性化に近づく一歩だと考えています。

私の教育に関する思いは、先ほどお配りいたしました、教育に関する大綱（案）でお示した3つの目標であります「自立」「共生」「貢献」に集約されるものと考えています。

先般策定されました、第二次小平市教育振興基本計画では、引き続き、「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」を目指す人間像に据えています。

冒頭でも申し上げましたが、昨年度の第1回の会議の場で、私と教育委員の皆様が考える「10年先を見据えた小平市の教育が目指す方向性」がおおよそ一致していることが確認できておりますし、このことを踏まえまして、小平市第四次長期総合計画における「ひとづくり」を実現するための個別計画にも位置付けられています、第二次小平市教育振興基本計画の目指す人間像・基本理念・教育の目標を、新たな教育に関する大綱としたいと考えています。

ここまで私の教育に対する思いや、教育に関する大綱（案）についてお話しさせていただきました。教育委員の皆様からも、第二次小平市教育振興基本計画も含め、教育への思いや力点などにつきまして、伺いたいと思います。

まず、三町教育長職務代理者より、お願いします。

○三町教育長 職務代理者

私は、今回の大綱に関してと、もう一つ、この会の形について大変ありがたく受け止めています。今までの総合教育会議は、我々が意見を述べてそれに対して市長から意見をいただく形でしたが、本来とは少し違うと思っていました。総合教育会議は、市長の教育への思いを教育行政に反映させる制度改革の中で作られたものですので、市長から体験を通して学ばせたいという具体的な方向性を出していただいたことを大変うれしく思っています。

10年程前の国の法改正に向けた議論の中には、教育委員会は市長の諮問機関の様な位置づけで、あくまでも市長－教育長－事務局というラインで教育行政を進めていくという、強い流れがあったと思います。その中で私が心配し、発言した内容は、政治的な中立性についてです。教育に関わって色々なものの見方、考え方があり、その中で、あるときの市長の、あるいはその背景となる党からの意見をそのまま反映されていっては非常に困ります。やはり教育はしっかり中立性を保ちながら、継続性をもって進めていく必要があると意見を述べた記憶があります。実際に審議会の結果とはかなり違うこのような制度になりました。そういう意味ではうれしく思っています。教育委員会制度は大事にしながらも、やはりトップである市長の教育への思いを我々も受け止め、その中で進めていくという姿勢であり、この制度を生かしていくという意味で、大変ありがたい形になったと思いました。

先日、芦屋市の新市長が会見で第一に言われていたのが「私がやりたいことは子ども一人ひと

りに合った教育、個別最適化の教育実現を図りたいのだ」ということでした。新任時に教育以外のテーマを選んで話される方が多い中、一人ひとりに合った教育をしたいと強くおっしゃっていました。

これは教育委員会として、また、学校現場や教員としても強くその責任を自覚しないとイケませんし、緊張感を持ったのではないかと思います。同時に、市長があれだけおっしゃったということは、それだけの条件整備なども進められるのだろうと感じました。

それと重なって、今日、市長のお考えとして、前の総合教育会議から引き続き「体験を重視したい」という思いを感じました。市長の思いを受け止めると同時に、それは我々の思いと合致することですので、進めていかなければならないと強く感じました。

市長が出されたこの大綱は、基本的には教育振興基本計画の基礎となっている考え方をしっかり押さえて進めなさいというメッセージと受け止めたので、まさに一緒に、一体となってやっていくものだと思います。

以前、教育には流行の部分と不易の部分があり、両方押さえる必要があるとお話ししました。これから先を見通したとき、流行ということでは、子どもに対しては個別最適の学びと言われるICTを活用しながらの学びと同時に、一緒に学んでいく。実体験をベースにしながらの、本当に身になるような学習を進めていただきたいと思っています。

また、生涯学習では、小平はコミュニティ・スクール化の目途がたってきましたので、そのコミュニティ・スクールをどのようにさらに発展させながら、地域との連携、いわゆる地域学校協働本部を設置し、地区交流センターを含めた一つの地域ネットワークを作っていくかがこれからの小平の課題なのだろうと考えています。

一方で心の面では、これからも小平に新しい児童が来て、変わっていきます。その中で小平というまちを愛する、あるいは歴史をつなぐという気持ちは大事にしていく必要があります。そういうことを意識しながら私も発言させていただいて、教育振興基本計画を策定しましたし、これから実際に、しっかりと推進されていくかを見ていきたいと思っています。

今日は市長の教育に対する思いを聞かせていただいて大変ありがたく思います。

○小林市長

自分ではたくさん考えているつもりですが、皆様にきちんとお示しする機会が実はなかったということを改めて感じました。今回きちんとお示しすることができましたので、良かったと思っています。計画をつくっていく上でも、大事なのは思いや理念であると思いますので、そうしたことの共有もできましたし、改めて皆様にお伝えすることができました。

それでは続きまして、丸山委員、お願いします。

○丸山委員

市長の具体的な考えを聞く、本当に良い機会を得ることができました。今年から5年生の自然体験が、一泊二日のスケジュールで実現されます。一学年に過ぎませんが、5年生にとってはおそらく貴重な良い経験になり、そういう経験が積み重なっていけば良いと思います。

マイノリティやダイバーシティなどは、近年のキーワードとしてよく挙げられていますし、小平市の教育においてもそういうものを強く意識することが、これから先を考えた上で重要なことだと思います。個を大切に、一人ひとり個別に向き合っていくという意味では重要なことであり、対極にあるかもしれませんが、それがひいてはコミュニケーションや、全体のまとまりというものになっていくと思っています。まさにこの目指す人間像の「自立」や「共生」というの

は、そこであると改めて思います。

色々な学校で人権学習や人権教育に積極的に取り組んでいただいているのを見まして、自分たちを大切に、または自分を大切にすることに他者を大切にすることは、教科としてではなく、色々な体験や行事を通してやっていくことが重要であると思います。

例えば制服について、今は女子がズボンをはくことが認められていますので、女子でもズボンをはいている子が結構多いのですが、今後は男子がスカートをはくことなども認められるようになるのではないかと思います。それはマイノリティや、ジェンダーの問題という面だけではなく、機能的にも、冬は寒いからズボンをはく、夏は暑いからスカートをはくということがあっても良いのではないかと思います。男子がスカートをはく、イコール気持ち悪いという感覚はもはや古いですし、それこそジェンダー平等に反するので、そういうところからぜひ、人権と言うと少し大きくなってしまいかもかもしれませんが、できるところから既成概念を取り払っていくことも重要なのではないかと思います。

性別や、障がいの有無、出身国の違いなどによるマイノリティを、もはやマイノリティと認識しないということが重要であると思います。それを学校、または学校を包括している地域で考えていってほしいです。そういうところに学校経営協議会やコミュニティ・スクールも取り組んでいただきたいと思います。

次に、文化財についてです。鈴木遺跡がどんどん認知されつつありますし、うどんが地域の風土に培われた郷土食として文化庁の指定を受けるなど、徐々に知られてくるようになりました。文化財の保存や、それを知ってもらうことにぜひ積極的に取り組むべきです。新田開発は江戸後期で、旧石器はもっと古いのですが、近代や昭和の戦前など、そういう時代の文化財や伝統、文化も今後残していかなければならないと思っています。

例えば、古い馬頭観音や庚申塔は、文化財だから守っていこうという意識を皆さん持ちますが、新しくできたお地藏さんや記念碑の石造物に対して、あまりそういう認識はないと思います。しかし、10年、20年経つと、それが何で、誰が建てたのかということがわからなくなってしまいます。江戸時代や200年前などではなく、将来の文化財になりうるということも考えて、現在進行形で文化財を文化財として認識し、市は情報収集をしてほしいと思います。文化財を愛するということは郷土愛につながり、ひいては小平を愛する、小平を今後支える人々のネットワークになっていくと思います。

最後に、地区交流センターです。公民館、図書館、体育館、地域センターは、生涯学習の重要な場ですので、子どもたちだけでなく、高齢者がそこに集うことで生きがいになったり、そこで新たなコミュニティを形成することになったりするという意味では、場所としてすごく重要だと思います。せっかくこの場所があるので、そこでどのような行事やイベントを展開するのかをよく考えていかなければならないと思います。高齢者だけではなく10代、20代の若い世代がそこに集まり、コミュニティを形成する新しい関係が生まれます。市を支えてくれる人々になると思うので、ぜひそういう感覚、場所を大切にしてもらいたいと思います。

○小林市長

今回5年生の移動教室が実施できることになりまして、よかったと思っています。10年前に子ども議会の中でいただいた宿題でもありました。経験を何度も積み重ねることが大事であると思っており、6年生の1回だけの移動教室ですと、先生も伝えたいことを全部伝えきれないでしょうし、5年生と6年生の2回あることで子どもたちも成長する、先生たちもそれに合わせてもっともっと高度なことを、子どもたちに課することができるということは、2回あることの大切さ

というところにつながると思っています。それを踏まえて、中学校のスキー教室や、そして集大成として3年生の修学旅行まで一貫の流れの中で、まず入口のところで一泊二日で泊まった上で何をしたら良いか、子どもたちがどう動いたら良いかというところを学んでいってほしいと思っています。

また、中学校の標準服については色々なことを認めるとい時代に入ってきたのだらうと思えます。「服装の乱れは心の乱れ」とよく言われる中で、「乱れではない。個々を認めていく」ということも必要であり、我々の意識の切り替えも必要になってくるだらうと考えています。なかなか切り替えられない方も多く、少し年配の方ですと、なぜ女の子がズボンをはいているのかという感覚をお持ちの方もまだまだ多いです。女性のパンツスーツに関しては一切言わないのに、中学校の標準服になると「女の子はスカート、男の子はズボン」となってしまうところは不思議だと思います。しかし、女性はスカートという意識がまだまだ残っていますので、社会全体の意識の切り替えというのは、考えとしては持っていかなければならないだらうと思っています。

文化財のことについてですが、新しいものをきちんと文化財と捉えて情報収集もしなければいけないし、ルーツがわからなくなってしまうものもあります。三中に入ったところに花崗岩などが50個ぐらい置いてあり、そのルーツを探ったことがありましたが、誰が集めたのかわかりませんでした。三中ができた時代のことですら誰も知らない、わからないということがあり、情報収集が大切であると思っています。そうした中で、将来の文化財にもなっていくということにもなると思えます。

○丸山委員

旧石器に関しては縄文時代のように「縄文土器が出ました」、「人骨が出ました」というものではないため、地味ですが、下にいた、下にあったという事実が重要だと思います。その遺跡を見せるだけではなく、保存するということが重要だと思います。発掘しないでそこにあるということが重要であり、だからこそ国が指定して新たに開発しないようにしているわけです。遺跡と、今後遺跡から出た石器類を、都、ひいては国において指定出土品として指定されることが鈴木遺跡にとって、また小平市にとっても良いことだと思います。そういう遺物が、例えば東京国立博物館など、色々なところに展示されるということも、小平市から出たという意味ではとても重要なことですので、ぜひ出土品の重要文化財化、指定出土品化を目指してほしいと思います。

○小林市長

続きまして、青木雅代委員、お願いします。

○青木雅代委員

市長の思いを伺うことができる良い機会を設けていただきありがとうございました。今回の計画の中では特に、私も体験や経験を通して心豊かな子どもの成長を願うという点に思いが強く込められていると思っています。これまでの総合教育会議の中で皆様の意見も伺い、子どもの成長における体験の大切さを感じています。特に、5年生の宿泊を伴う行事の開始は、周りの保護者からも好評だと聞いています。コロナ禍において体験格差という言葉をよく耳にしますが、市として、全ての子どもたちに自然に触れ合い、宿泊を伴う共同生活を体験する場を新たに設けていただいたことは、素晴らしい取組だと感じています。このように、日頃の学校生活や授業の中での体験に加え、より多くの学びの場である行事を今後も大切にしていけると良いと思っています。

最近、新型コロナウイルス感染症に関して、これまでの生活から随分変わってきています。そ

の中でまず、子どもにコロナ禍前の日常生活を取り戻してあげるのが大切であると感じています。マスクの着用について方向性が変わってきて、特に小学校では子どもたちもマスクを外してにこやかな顔で生活している姿が見られるようになりました。先生方も小学校ではマスクを外して子どもたちと接する場面が増えているように思います。口元が見え、顔全体の表情から相手の気持ちを読み取ったり、感じ取ったりするということも、成長の過程では大切なことだと言われていますが、コロナ禍ではそれができず、子どもたちが人の心を感じ取ったりする能力が低下しているのではないかとされていました。ようやく少しずつ改善されてきていますので、早くコロナ禍前の正常な状態が当たり前となつて、一つひとつの経験を大切にしていけると良いと思います。

また、給食の黙食についても変わってきて、机の向きを変えて向き合って食べる場面や、楽しく食べる場面も出てきましたが、3年間も前を向いて静かに食べなさいと言われてきた習慣はなかなか抜けないようで、向き合っているけど静かに黙々と食べていると聞きました。少しずつ変わってくると思いますが、コロナ禍ですっかり変わってしまった習慣を早く取り戻し、楽しい給食の時間となることを望んでいます。小平の食育を通じた健やかな体の育成は、他市にも誇れる施策であり、今後も十分に生かしていけると良いと思っていますので、早くコロナ禍前の楽しい給食の時間に戻ることを願っています。

今回の計画の中では、学校や家庭、地域がつながり、持続可能な教育環境をつくるということが重要だと感じています。小学校の建て替えと同時に地区交流センターの建設ということもありましたが、そういう中で十分に検討されて推進できることを願っています。コロナ禍を経て学校と保護者の関係とつながり、特にPTAのような関わりが見直され、変わってきています。そのような中で学校を核とした地域づくりを目指して、保護者だけではなく地域と共に子どもの成長を支える仕組みの確立というのがより望まれるようになってきていると思います。子どもたちが成長の中でより多くの人と出会い、触れ合うことは本当に大切であると思います。

また、よく居場所づくりと言われますが、多くの人がいればそれだけの居場所ができると思いますので、大切なことだと思います。現在コミュニティ・スクールの推進が図られていますが、数年ごとの振り返りの中で、次の世代への引継ぎがなかなか難しいという状況を聞きます。地域との連携をより一層具体的に考えていくことが必要な時期だと思っています。公民館や図書館で生涯にわたる学習活動で得た知識や技能を、地域の活動や学校での指導に生かせるような仕組みを具体的に確立していけると良いと思っています。学校で小さいうちに学ぶ楽しさを身につければ、それが生涯にわたって学びを続けられる形になっていくと思いますので、そういう環境をつくっていくことも大切だと思います。

一つひとつの教育の目標に向かって様々な施策が展開されていますが、時代に合った方法で子どもの成長につながるよう、これらが迅速に進められることを願います。個々の学校ではそれぞれの特徴を持った指導がなされていると思いますが、子どもたち一人ひとりが大切な存在であることを感じ取ることができ、のびのびと自分を表現できるような環境がより広がっていくと良いと思っています。自尊感情や自己肯定感は、周りの人への思いやりや、周りの人も同じように大切にできる心を育むと思います。そしてその気持ちが自分の育ったまちへの愛着になると思いますので、子ども一人ひとりを大切に、それを支える人がいて、その気持ちを育ててあげることで、小平というまちの素晴らしいさがより広がり、色々な人に伝わっていくのではないかと思います。

計画の推進にあたり、今後は多くの方々に理解し協力していただけるように、より確実な周知の方法を考えていければ良いと思っています。素晴らしい施策だと思いますので、より多くの人

に伝え、一緒になってつくり上げていく、成し遂げていく形ができれば良いと思っています。

先程、岩石園のお話が出ましたが、一小が創立150周年ということで岩石園を調べ、100周年の記念としてつくったとわかりました。学校の記念としてつくったのではないかと思います。歴史のある学校にはあるように思いますが、一小については100周年の記念でつくったと書いてありました。

○丸山委員

二小も、50周年の時に岩石園をつくりました。

○小林市長

どういった目的でつくられたものなのか、その時の流行だったということでしょうか。

○青木雅代委員

なかなか見られない岩石を集めて、小さな標本ではなく岩として見せる、触れさせるという目的だったと思います。三中は今でも全部の岩の名前まできれいに残っていますが、小学校ではそこに花が植えてあったり、池になっていたり、名前まで残っているところは少なかったと思います。標本として実際のもの子どもに見せる、触れさせるという意味でつくられたのだと思います。

○小林市長

思わぬところで回答をいただきました。

○三町教育長 職務代理者

戦後発足した新制中学校は建設からそれほど経っていない頃です。小学校と中学校は設置した目的が違うかもしれませんが、きちんと調べた方が良いでしょう。

○小林市長

体験格差というお話をいただきました。ご家庭の経済事情等で、旅行に頻繁に行けるご家庭と行けないご家庭があります。集団活動、移動教室とはまた違いますが、どこかに行くということについては、どうしてもご家庭の事情が大きいと感じています。そうした中で、体験格差にならないように、子どもたちが色々な経験、体験をできるようにするという点は、学校としてもバックアップできるだろうと思っています。

コロナ禍前の学校の給食の時間に戻ると良いとのお話でしたが、コロナ禍前ですと野菜を育てた地域の農家の方が「私が白菜を育てたんだぞ」と言いながら一緒に給食を食べていたこともあります。そういったことがコロナ禍で全くなくなってしまったので、それも復活してほしいと思いますし、放課後子ども教室に来てくださる地域の方が、触れ合い給食で各教室に入って、短い時間でも一緒に食べるのは仲良くなるきっかけにもなりますので、そういったところについてもぜひやっていっていただきたいと思います。

おそらく子どもたちはすぐに楽しい給食の時間に戻ると思います。今はまだ慣れていないと思いますが、すぐに子どもたちも元気な給食になると思います。先生は元気すぎると大変で、牛乳がこぼれるとか、色々アクシデントはあるようです。そういったところは抑えつつ楽しい給食の時間を過ごしていただきたいと思います。

コロナ禍でPTAの活動の形が変わってしまい、元の形が100%正しかったかというところでもないところもあるかもしれませんが、できないことと、できるようになったけれどもやっぴこなかった、それで済んでしまったからそれで良い、というところの差がつきにくくなってしまい、どんどん縮小になってしまっているのが今のPTAの方向性ではないかと思っています。

青木委員のお話にあるように、これまでの形に無理があったのであれば今後は学校、保護者、地域という新たな形で子どもたちと一緒に関わっていくことを、模索していかなければいけないと思います。そういった中では地区交流センターの果たす役割もあると思っています。子どもたちが学校と家庭以外に色々な居場所がある、自分の居場所がある。自分の居場所を複数持っている子の方が自己肯定感が高いという研究結果を見たことがあり、そういった意味では、学校内ではありますが、地区交流センターは、学校とは別組織になりますので、そうした中に将来的には新たな居場所もつくってもらうことで、子どもたちの居場所がどんどん増えると良いと思います。そうした部分を一生懸命考えたこの計画が、つくって終わりではなく、一緒につくっていただいた方、またここに関わっている方と一緒に周知し、きちんと実施していくというところに行きつくと思っています。

続きまして、望月委員、よろしくお願いします。

○望月委員

教育を考えるにあたって、第一に何が大事であるかと思いながらお話を聞かせていただきました。市長から、第一に他者を思いやる気持ちを育てたい、そのためにも体験授業を増やしていきたいというお話がありました。自立や共生、共に生きるということを考えたときに一番大事なものは、思いやりではないかと思っていましたので、ぜひとも思いやりを育てる教育を今後も実行していただきたいと思っています。

また、専門性など、可能性を広げていくという意味で、一人ひとりの子どもに合った学習をさらに伸ばしていきたいというお話があった時に、すごくありがたいと思いました。専門性ができていくことによって、多様性も出てくるとは思いますが、自信が育つことになるとは思いますし、自信が育てば当然ですが自立につながってくるものだと思います。専門性があるからこそ、逆に周りに対して手を差し伸べることができるようになるのではないかとと思っています。先程、他の委員からもお話がありましたが、ぜひその部分を一人でも多くの方の目に触れ、耳にさせていただくような周知をお願いしたいと思っています。

なぜこのようなことを先にお伝えしたかという、小平市の人口は徐々に増えている状況です。その中でも、いわゆる核家族という言い方が正しいのか、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒ではない家庭が増えていると思います。その中でダブルインカム家庭がとて増えていると思います。それぞれの地域でも問題になっていることもあると思いますが、今までは家族で子どもを育てるといのが一般的だったかもしれませんが、徐々にそれが難しい状況になってきている中で、学校、家庭、地域がつながり持続可能な教育環境をつくり、地域で子どもたちを育てていただけような環境が充実されることを切に願っています。

先程、体験授業のお話がありましたが、これは学校だけの話ではないと思っています。先日、小平市のスポーツ推進委員でニュースポーツデーを開催させていただきましたが、とても多くの子どもが参加しました。昨年に比べて増加し、260名以上の子どもに家族連れで来ていただきました。やったことがないスポーツもその中には多くあったのですが、それを子どもたちはとても楽しそうに見て、実際に活動していました。体験を通して、そこにいる大人たちと、非常に仲良く一緒になってスポーツをしていました。その中でつながり、「あのとき会ったお兄ちゃんだ、

おじちゃんだ」と言っていたこともあり、参加している子どもにはまたそういう機会があると来ていただけるのかなと思います。その結果、我々とも市ともまたつながりができると思っています。スポーツなので、こちらにあります目標の中の「健やかな体の育成」にも当然つながってくるものと思っています。市全体でそのような活動は常に行われているものだと思いますが、それが全ての市民に届いているのかと言うと、届いていないところももしかしたらあるのではないかと思います。もっともっと多くの方々にご参加いただくために、毎回お願いばかりですが、市長には頑張ってください、広報等で大々的に発信していただいで、参加しやすい状況をつくっていただけますようお願いいたします。

最後に、市民が元気になっていくこととは、教育のこと、体の成長のこともそうですし、豊かな心ということもあります。昔から言われている言葉ですが、心技体という言葉があり、心を育てることや、知識のことももちろん、全て相手を受容できる学びが大事だと思います。ぜひとも引き続き豊かな心を育てる教育を続けていただきますようお願いいたします。

○小林市長

豊かな心というのは相手を思いやる心、そういったところになると思っています。私自身子育てをしながら一番気を付けていたのは、物を失くした時の子どもへの声掛けです。「何しているの、どこに置いたの」と言わず、一緒に探すようにしていました。そういった経験が学校で友達が物を失くした時に、「何しているの、自己責任だ」という子ではなく、一緒に探してあげられる子になるだろうと信じて、一言飲み込んで一緒に探すよう心掛けてきたところでした。どこまで子どもに伝わったかはわかりませんが、たぶん学校では一緒に探してあげているだろうと思っています。そうした心は、まずは相手に与えてあげる、そういった思いやりを持って接すればそういう心を子どもたちも吸収してくれると思っています。思いやりのある心を育てろと言われて育つものではないので、学校の先生もご指導をいただいているとは思いますが、学校だけ、家庭だけではなくて、地域も子どもたちに温かい目を向けながら一緒に育てていければ良いと思っています。

先程のお話のようにダブルインカムや、母子家庭、父子家庭において、一対一、密室育児になってしまう中で、まず親に対して思いやる心に向けてあげられる人たちが必要なのではないかと思います。そうしたところは市だけでどうにかできないことではないので、様々な媒体を通してやれるところを全部やっていけば、小平市として全部が良くなっていくのではないかと期待しています。

先日のニュースポーツデーで、私もやらせていただきましたがなかなか難しく、やったことのないものはまずやり方を聞くところから始まりますので、そういうところでも関係ができると思います。スポーツ推進委員の皆様も子どもたちに熱心に教えていただき、子どもたちも何回もトライしてだんだんうまくなっていくなど、そうすると何かイベントがあったときに参加してくれると思います。参加してくれるイベントがあるというのも居場所の一つだと思いますので、そうしたところをまちぐるみでやっていければと思っています。広報を頑張りたいと思います。

それでは、続きまして、青木由美子教育長、よろしく願いいたします。

○青木由美子教育長

市長には教育行政に対する深いご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。この度は小平市の教育に関する大綱をお示しいただきましてありがとうございます。市長の熱い思いを拝聴することができました。私からは自分の専門性を踏まえて考えを述べさせていただきますながらまとめていけたらと思っています。

まず、体験活動、特別活動の視点からお話ししたいと思います。校長経験と大学教員経験から、高校受験に向けての中学生の面接練習や昨年度大学で特別活動等の授業をしてきた中で、中学生には3年間、大学生には学生時代を振り返ってもらった時に語られるのは、修学旅行、スキー教室、運動会、学園祭、合唱コンクールなどほとんどが学校行事の体験です。人にとって体験が大切な思い出になっていることを、私はずっと痛感してきました。自分が特別活動を研究している中で、非常にそれはうれしいと思うと同時に重責を担っていると思ったのですが、市長のお考えにあります通り、豊かな体験活動が子どもたちの人格形成や人間形成に大きく関わっていると考えています。体験を大きく、広い意味で捉えていくと、学校教育における集団活動によって協力したり互いを認めたり、話し合い活動を通して折り合いをつけながら合意形成をしたり、自分の意思決定をしたり、そういう体験は社会の一員として大変重要であると考えています。各教科をはじめ特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動という学校の教育課程で実践していくこととなりますが、とりわけ特別活動の役割が大きいと考えます。その内容である学級活動では、児童・生徒自らが自分たちの生活上の課題を発見して、話し合い活動を通して教師の適切な指導のもと、自分たちで解決しようとする態度を身に付けることができます。もう一つの内容である児童会・生徒会活動や小学校におけるクラブ活動では、異年齢による集団活動を通して人間関係を形成しながら自発的・自治的な行動ができるような態度を身に付けることができます。

さらにもう一つの内容である学校行事では、運動会や合唱コンクール、集団宿泊的行事など様々な行事を通して、みんなで協力することの喜びや成し遂げた後の達成感、自己有用感などを得ることができます。特別活動はその特質から目指す資質能力を、人間関係形成、社会参画、自己実現という3つの柱で整理しています。キャリア教育の要であるともされており、まさに本市が目指す人間像である「自立」「貢献」「共生」を実現するために、大変重要な大きな役割を果たす領域であると捉えています。とりわけコロナ禍のもと、人間関係が希薄になっていないかと危惧される中で、特別活動の充実が欠かせないものであると思います。今後、本市における特別活動の充実が果たせるよう、具体的に取り組んでまいります。

次に、地域活動という視点でお話し申し上げます。令和7年度に本市全小中学校でコミュニティ・スクール化が完了します。これからはその方向性を明確にしながらそれぞれの学校が地域と連携し、持続可能な学校教育の在り方を探っていくことが大切であると考えています。とりわけ今後の大きな課題の一つとしては、部活動の地域連携、地域移行が挙げられます。今般の教員の働き方改革を背景に国も都もガイドライン等を作成し進めています。教員は東京都で採用されていますので、数年間在籍すると異動することとなり、学校部活動の指導体制は継続した構築がなかなか難しい状況にあります。中学生にとって意義の大きい部活動について、持続可能な指導体制を構築するためには今後地域の力を活用しながら進めていく必要があると考えています。

マイノリティ、多様性という視点からお話しします。思いやりの心を育てるというお話もありました。みんな違ってみんないい、本当に小さい頃からみんながそのように思える社会の実現を目指していきたいと考えています。児童・生徒、市民の一人ひとりの人権感覚を磨いて、一人も取り残さず自分を大切に、人も大切ということが当たり前と感じられるような思いやりの心を育てる教育の推進をしていくことが重要であると考えています。

最後に地域資源という視点でお話しします。文化財のお話もいただきました。冒頭のあいさつで申し上げた通り、この1か月半余りの期間で地域をめぐって、小平市の豊かな資源に触れることができました。彫刻家の平櫛田中氏や鈴木遺跡、それらは本市の誇りであり、例えば田中氏の生涯は私たち市民の手本となると感じました。そうした地域の資源を学校教育や社会教育に十分に活用して、みんながもっともっと小平市への郷土愛を高めていけるように努めてまいりたいと

考えています。

このような観点から、大綱にお示ししていただきましたとおり、教育は人を育てること、これを念頭に社会的に自立し地域社会に貢献しながら他者と共生する人の育成を目指してまいります。市長の思い描く小平のまちづくりを、教育行政のリーダーとして頑張って進めてまいりたいと思います。周知という点では、キーワード「自立」「貢献」「共生」を4月から私は紙で示しながら、少なくとも6回は示しております。市内小中学校全教員対象の教員研修会でも、ホールで800人、900人に見えるような大きな紙で示し、校長会議の資料にも毎回定番で掲げられるようにして、周知に努めています。教育長室にも貼っていますのでぜひ見ていただければと思います。そのようなことを通して市全体で、一人ひとりがキーワードを基に、「つながり」を心に留めながら日々過ごしていくというのが大切であると思っています。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

○小林市長

私も広報を頑張っていきたいと思います。

私もおあいさつの機会を頂戴することも多いのですが、「つながり、共に創るまち」というのは大切であるということ、キーワードとして絡めながらあいさつをさせていただいています。あいさつの中で触れるのは大切なことと思っており、地道になりますが、広報はこれをやったら絶対成功ということはないので、機会を捉えて実施していきたいと思っています。

皆様本当にありがとうございました。本日の協議を通しまして、私の教育に対する思いと、教育委員の皆様の教育に対する思いについて、大きな相違はないということを改めて確認することができたと思っています。

それでは、本日お配りいたしました教育に関する大綱（案）につきまして、小平市の教育に関する大綱として定めたいと考えていますがいかがでしょうか。

○教育委員一同

異議なし。

○小林市長

ありがとうございました。

それでは皆様から賛同を得られましたことから、これを、「小平市の教育に関する大綱」として定めたいと思います。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育に関する大綱を定めたときは、これを公表することとされていますので、市ホームページで公表したいと考えています。

なお、大綱の対象とする期間につきましては、法律上に規定はありませんが、首長の任期や、国及び市の教育振興基本計画の計画対象期間などを考慮いたしまして、適宜見直しを行ってまいりたいと思います。

（閉会）

○小林市長

それでは本日の議題は以上となります。

次回の会議は、現在のところ12月頃を予定しています。どうぞよろしくお願いいたします。

今後も教育委員の皆様と連携し、当市のより一層の教育施策の推進を図ってまいりたいと考え

ていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして本日の会議はこれで閉会といたします。